

■ 指定管理者制度導入施設 モニタリングシート ■

評価年度

令和3年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立環境情報センター(エコパークさがみはら)
指定管理者名	株式会社ウイツココミュニティ
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
施設設置条例	相模原市立環境情報センター条例
施設の設置目的	環境の保全及び創造に関する学習の推進並びに市民等が自主的に行う環境の保全及び創造に関する活動の促進を図る。
施設概要	開所日 平成18年4月1日 所在地 相模原市中央区富士見1-3-41 構造 鉄筋コンクリート造2階建て 敷地面積 2,393.29㎡(衛生研究所敷地含む) 延床面積 600㎡
施設所管課	環境経済局 ゼロカーボン推進課

2 管理実績

項目(単位)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数合計(人)	36,375	30,958	23,329	20,554	22,226	12,395	15,660
利用料金合計(円)	719,850	650,472	678,375	617,956	545,792	1,026,255	1,274,559
貸館率(%)	34	35	28	28	28	70	72

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
A	目標達成度が107.8%であることから「A」評価とする。令和2年度はオンライン動画の再生数を評価に加えた結果として達成度が非常に高くなったが、令和3年度は対面型の従来の事業開催に戻したこと等により実績が令和元年度と同水準となったと考えられる。ソーシャルディスタンスの確保など制約の多いなか、感染症対策を講じながら対面型の事業を実施できたことが評価できる。

指標	
指標名(単位)	事業開催に伴う参加人数(単位%)
指標式と指標の説明	(環境学習事業の「事業参加者数」÷「事業参加者目標人数」)×100

項目(単位)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値(%)	80%	80%	60%	65%	70%	75%	80%
実績値(%)	158%	158%	158%	108%	88%	193%	86%
達成度(%)	197.5%	197.5%	263.3%	166.2%	125.7%	256.9%	107.8%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	目標達成度が112.5%であり「A」評価とする。令和2年度は新型コロナウイルス感染症により多くの事業が中止となったが、令和3年度においては感染症対策を行いながら、環境学習事業を5年間で最大の46回と仕様書で規定する20回を大きく上回り実施したほか、中止になった環境まつりの実行委員と協力し、代替事業として展示や講座を行うなど、事業継続のための工夫が見られた。また令和2年度から引き続き積極的にSNSやラジオなどを活用した広報を行い、ホームページのアクセス数も大きく増加するなど、情報発信に力を入れたことは評価できる。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
自然環境観察員制度事業 かんきょう学習セミナーの開催 (年3回以上)	通年	・開催回数5回 参加者数合計 90名 ■第1回環境学習セミナー/1.制度の概要、全体テーマ調査について等 45名 ■第2回環境学習セミナー/講演会「激増するナラ枯れの現状と対策」 18名 ■第3回環境学習セミナー/・湧水及び水生生物調査の事前研修・身近な昆虫講座 8名 ■第4回環境学習セミナー/・水生生物の同定勉強会12名 ■第5回環境学習セミナー/・水生生物の同定勉強会 7名	◎
事業協力者登録制度「エコネットの輪」事業	通年 (プログラム集は8月発行)	団体数99件、プログラム数110件、照会・仲介数15件。プログラム集は8月に360部発行した。大手企業の参加等もあり2団体増加したが、活動を停止した団体もありプログラム数は5件減少。	○

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
環境情報システム事業	通年	YouTubeは今年度は新規で配信しなかったものの閲覧数は4万回を超え登録者数も650人に増加した。ホームページのアクセス数は増加し、SNSの拡散も見られ環境学習講座への集客や新規施設利用者増に繋がった。ラジオ広報も216回と前年以上に実施し、施設の認知度向上に努めた。	◎
エコギャラリーの運営事業	通年	企画展を前年度と同じ14回実施。11月にさがみはら環境まつり実行委員有志による「No CO2 November」の一環として環境保全啓発の展示を週替わりで実施。	○
環境学習事業(年20回以上)	通年	・小中学生対象の講座実施回数は5回、参加者163名 ・親子対象の講座実施回数は20回、参加者729名 ・成人対象の講座実施回数は21回、参加者346名 合計46回、参加者1,238名 会場の定員数制限などにより、参加者数はコロナ前の半分程度となったが、事業回数は5年間で過去最大となった。	◎

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
津久井産材グッズ販売	通年	木工品の販売を通して森林資源の有効活用や地産地消について啓発した。	○

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	前年より満足度が3.9%上がり、達成度104.2%であり「A」評価とする。感染症対策に取り組みながら適切に施設を維持管理し、利用者の満足度を向上させたことは評価できる。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	利用者へのアンケート調査を実施 時期:令和3年11月1日～令和3年11月30日 サンプル件数:218名
目標値の基準	利用満足度の設問に対する「満足」と「やや満足」の合計の割合

項目（単位）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値（%）	84.8	82.0	89.3	98.4	97.6	98.3	92.9
実績値（%）	82.0	89.3	98.4	97.6	98.3	92.9	96.8
達成度（%）	96.7%	108.9%	110.2%	99.2%	100.7%	94.5%	104.2%

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
(なし)		

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	施設の収支は本体事業収支、全体収支ともに黒字となっており、団体本体の経営状況についても特段の問題はない。

施設の収支概要		※直近3年間について記載			(千円)
項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
収入 (a)		25,766	28,212	27,192	
指定管理料		25,044	25,263	25,263	
利用料金収入		546	1,026	1,275	
その他の収入		176	1,923	654	
支出 (b)		22,664	23,201	24,868	
人件費		16,295	15,606	17,015	
本社管理経費		1,073	1,327	1,454	
その他の支出		5,296	6,268	6,399	
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		3,102	5,011	2,324	
自主事業収入 (d)		0	97	67	
自主事業支出 (e)		0	94	90	
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		0	3	-23	
全体収支 【(c)+(f)】		3,102	5,014	2,301	
備考	活動室を市に継続して貸し出したことにより、利用料金収入が増加した。その他の収入は繰越金収入の分が昨年度より減少した。 職員の昇給等により人件費が増加した。				
団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。				

7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング・現地確認により検査を実施	
実施時期	令和3年8月	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	×
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	○
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	レスポンシブデザインを導入し、各デバイスでの視認性を確保いたしました。

9 指定管理者の自己評価

環境学習講座の充実、館内設備の充実を行い利用者満足度を向上させることができたとして自己評価しています。環境学習講座は家族単位での環境保全意識の高揚を目標に親子を対象として20回実施し、リピーターを獲得することもできました。また、参加者が別の講座に知人・友人を誘って参加する状況も作ることで、「家族単位で拡大」していくという手法に間違いはなかったと認識しております。館内設備もエコギャラリーの照明をLED化し、明るく居心地の良い場所づくりに取り組み、初めての方でも入館しやすいよう立て看板やのぼりを設置しました。蔵書の刷新にも取り組み、間接的に環境に興味をもってもらえる図書の配架やWeb会議を手軽にできる仕組み作りにも取り組みました。また、子どもエコクラブの登録クラブ数においては全国2位、自然環境観察員制度事業においては新しい募集方法として市内全中学生を対象にチラシを配布し7名の新規登録者を獲得する等の成果もありました。

10 所管課意見

事業の面では、令和2年度は実施が難しかった対面型の環境学習事業を再開し、5年間で最多の46回開催したほか、2年連続で中止となったさがみはら環境まつりの実行委員と協力した代替事業を実施するなどの柔軟な対応を行い、コロナ下においても活動を途切れさせず、積極的な事業活動を継続していたことは評価できる。

また、積極的にSNSやラジオなどを活用した広報を行うほか、立て看板やのぼりなどを設置して通りがかった方に興味を持っていただくなど、施設に入りやすくするための工夫を行ったことは、施設の知名度向上や環境学習事業の周知に一定の効果があったものとする。

11 選考委員会意見

令和2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、いかに市民の方々、特に子どもたちに環境に触れてもらえるのかを考えて様々なアプローチで事業を実施していた。環境学習においては参加者が自ら考え、体験することが重要であり、令和3年度は感染症対策を行いながら参加者が環境の大切さをリアルに体験することができる対面型の事業を多数実施したことは評価できる。

今後の環境情報センターの運営においてもこれまでの実績から得た経験を引き継ぎつつ、環境について参加者が受動的に学ぶのではなく、自ら意欲的に学ぼうと思えるような事業を実施してほしい。

総合評価（自動判定）

A

(80/100)

